

(別表) 昭和 60 年度

白河コミュニティ教室 学習プログラム

- 対象者 白河市在住5年以内の男女
 - ねらい 白河や福島のよさを紹介し、明るい家庭づくり・友達づくりを進める。

には「見知らぬ土地でノイローゼ気味になり、東京方面の空を眺めては涙を落としておりましたが、この教室に参加したおかげで、毎日明るく暮らしています」という人もいる。(別表参照)

本教室内での、人ととの結びつきは早いもので、数人の教室生がグループ化し、乳幼児を持つ母親を対象に開

設している「明日の親・めぐみ学級」の講義の間、受講生の乳幼児の「一時保育」を自主的に買って出るなど、ボランティア活動をすすめ、明るい地域づくりに大きく貢献している。その後このグループは名称を「ボランティア軍団」と名づけ、白河市ボランティア連絡協議会に加盟している。

| No | 月 日 | 曜 | テ　ー　マ | 内　　容 | 時　間 | 備　考 |
|----|------|---|--------------|-----------------------------------|---------------|-----------------|
| 1 | 5・7 | 火 | 開講式・班編成 | ・開講式・班編成 ・自己紹介・映画(街) | 1：30 4：00 | 公民館職員 |
| 2 | 5・14 | 火 | 須賀川牡丹園めぐり | ・須賀川牡丹園の歴史と見学 ・大桑原つづじ園見学 | 10：00 4：00 | |
| 3 | 5・21 | 火 | 文化財めぐり | ・市内の市県国指定文化財 | 1：30 4：00 | お寺の住職 福祉バス |
| 4 | 5・26 | 日 | 一切経山ハイキング | ・吾妻スカイライン(福島市) ・一切経山(1,948.8m) | 6：30 5：30 | 白河連峰会 レンタカー |
| 5 | 5・28 | 火 | コーヒーでお付き合い | ・白河市の学校教育を知る 友達づくり、話し合い | 1：30 4：00 | |
| 6 | 6・4 | 火 | 白河水道事業所めぐり | ・水道事業所のルーツを知る ・施設見学 | 1：30 4：00 | 白河水道事業所 福祉バス |
| 7 | 6・11 | 火 | 文化財めぐり | ・白河バラ園見学 ・小峰城跡の歴史と石垣 | 1：30 4：00 | 山口喜一郎 福祉バス |
| 8 | 6・18 | 火 | ボランティア入門 | ・太陽の国施設見学 ・ボランティア活動 | 1：30 4：30 | 太陽の国職員 福祉バス |
| 9 | 6・25 | 火 | コーヒーでお付き合い | ・パネルディスカッション ・映画フォーラム | 1：30 4：00 | 公民館職員 |
| 10 | 7・2 | 火 | ミステリーパス | ・教室生の計画により実施 (行く先は最後にわかる) | 1：30 4：00 | 福祉バス |
| 11 | 7・9 | 火 | うまいものめぐり | ・会津若島方面 ・イワナのつり方&食べ方 | 10：00 4：00 | 福祉バス |
| 12 | 7・16 | 火 | 白河市政懇談会 | ・七万都市白河のまちづくり ・白河の文化とスポーツ | 1：30 4：00 | 福祉バス |
| 13 | 7・23 | 火 | さよならコミュニティ教室 | ・閉幕式・映画(尾瀬) ・学習のまとめと反省 | 1：30 4：00 | 公民館職員 |
| 14 | 7・30 | 火 | 尾瀬と大内部落ハイキング | ・日光スキグの尾瀬沼一周 ・江戸初期の宿場町(大内部落) | 4：00 8：00 | 福祉バス |

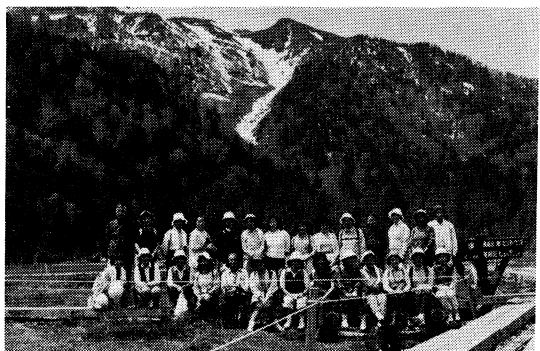
五、教室の今後の課題

今後の課題としては

(1) 教室受講生の年齢層が、二十代から七十年代と幅が広いため、学習主題に対するニードを考慮したカリキュラムが大切と考える。

(2) 募集定員四十名については、郷土理解に関する学習プロダクトが多く、したがって、野外学習のための交通機関として福祉バスを利用させていただいている。バス定員となつ

なお、募集制限をしなければ、七十名前後となると予測している
③教室での学習内容をどのようにし
て地域づくりの中に還元し、波及



福島の自然に親しむ・尾瀬にて

六、おわりに

コミュニティとは、「生活環境を同じくし、それをよりどころにしながら生活向上を願う地域の人びとが、共通の課題について連帯意識をもつて、創造的地域づくりをすすめて行くことをいう」といわれている。

白河市は今、東北新幹線の上野駅直行乗り入れによって、約一時間で東京へ行く時代が到来し、いよいよ首都圏に入つたと考える。人口動態は激しく動き、地域開発は力強くすすめられるなかで、このスピードある動きに遅れることなく学習し、「連帯感」と「隣人愛」をその地域の中心に据えて今こそ人ととの絆をより強く、より大きく、よりたくましく結び、よりよき地域づくりをする時と考える。

この教室を本年度のみに止めることなく、自主開設を継続し、教室生の意識向上のため、各種団体、グループとも協力体制を固め、「住みよい地域づくり」のために、地域性あふれる学習を続けたい。

まちからむらから
こんにちは

効果をたかめていくか、また、地元住民との結びつきのすすめ方。となつてゐる。